

# PIARC（世界道路協会）キックオフミーティング参加報告

松澤 勝

## 1. はじめに

2020年1月29～31日に、フランス共和国・パリ市郊外にあるIFSTTAR（フランス交通科学技術研究所）でPIARC（世界道路協会）のキックオフミーティングが開催されました。筆者は、PIARC冬期サービス委員会の日本の技術委員として、戦略テーマ3の全体会議と、冬期サービス委員会会議に参加する機会を得たので、その概要を報告します。

## 2. PIARCとは

世界道路協会（PIARC－World Road Association）は、1909年に設立された道路交通分野としては最も歴史のある国際機関です。PIARCには、約140か国から、124の国家政府を含む、地方公共団体や個人等が加盟しています。日本の第1代表は国土交通省道路局長（または技監）が務めています。

PIARCは、道路および道路交通分野における国際間協力の推進や発展強化を主な目的として4年毎に活動計画を策定し、それに基づき戦略テーマ（ST: Strategic Theme）を定めています。2020年から2023年までの新しい計画期間（ターム）では以下の4つの戦略テーマ（ST）が設けられています。筆者が技術委員を務める冬期サービス委員会はST-3に属しています。

- ・ST-1: 道路行政
- ・ST-2: モビリティ
- ・ST-3: 安全とサステナビリティ
- ・ST-4: レジリエント・インフラストラクチャー

## 3. キックオフミーティングの概要

### 3. 1 全体会議

新タームの活動を議論するため、1～2月に週替わりで戦略テーマ毎のキックオフミーティングが行われました。

29日の会議では、ST-3に属する委員を一堂に集め、

PIARCの目的や現タームの戦略計画、活動体制、技術委員会の主要な活動などについて、PIARC事務局やPIARC副会長で、ST-3コーディネータを務める菊川滋氏（元国土交通省技監）他によりプレゼンテーションが行われました。

### 3. 1. 1 技術委員会の活動体制

現タームでは、前述の戦略テーマ毎に、4～6の技術委員会（TC: Technical Committee）やタスクフォース（TF: Task Force）が設けられています（表-1）。これらのTCやTFを見ると、国際的な道路行政や道路技術の注目分野が推察できます。なお、全ての委員会

表-1 現ターム(2020～2023)の技術委員会等の構成

● ST-1: 道路行政	
TC 1.1	交通行政のパフォーマンス
TC 1.2	道路インフラと交通の計画による社会経済開発
TC 1.3	資金と調達
TC 1.4	気候変動と道路ネットワークのレジリエンス
TC 1.5	災害マネジメント
TF 1.1	用意周到なプロジェクト
● ST-2: モビリティ	
TC 2.1	都市圏のモビリティ
TC 2.2	地方部のアクセシビリティとモビリティ
TC 2.3	貨物輸送
TC 2.4	道路ネットワーク管理/ITS
● ST-3: 安全とサステナビリティ	
TC 3.1	道路の安全
TC 3.2	冬期サービス
TC 3.3	アセットマネジメント
TC 3.4	道路インフラと交通における環境持続性
TF 3.1	道路インフラと交通のセキュリティ
● ST-4: レジリエント・インフラストラクチャー	
TC 4.1	舗装
TC 4.2	橋梁
TC 4.3	土工
TC 4.4	トンネル
● 共通	
	用語
	道路統計

に日本から委員を出しているわけではありません（例えばTC1.1、TC1.4、TC2.2、TC4.3など）。また、STに属さない共通部門のTCとして用語委員会と、道路統計委員会があります。後者は現チームから、新たに設立されたもので、(株)片平新日本技研の大西博文氏が委員長を務めています。

### 3. 1. 2 技術委員会の主要な活動

各技術委員会には、活動要項（ToR: Terms of References）が定められており、ToRに沿った活動を行います。主たる活動は以下のとおりです。

- ・ ToRに記されたテーマに関するレポート作成
- ・ 中低所得国(LMISs: Low and Middle Income Countries)等におけるセミナーの開催
- ・ 世界道路会議での担当セッションの準備
- ・ 国際冬期道路会議の準備対応（関係TCのみ）

### 3. 2 TC3.2冬期サービス委員会会議

30～31日は各TCに分かれて会議が行われました。

TC3.2冬期サービス委員会は、前チーム(2016～2019)のTCB.2冬期サービス委員会を引き継ぐものです。日本からは、技術委員の筆者と準委員のNEXCO東日本の中谷雪氷専門役が出席しました。両名とも、前チームから引き続き、その任に当たることになりました。また、連絡委員は、前チームまでは国土交通省道路局道路防災対策室長の充て職でしたが、現チームから、寒地土木研究所雪氷チームの松下主任研究員が務めることになりました。(本人は他の業務のため会議には欠席)

TC3.2冬期サービス委員会の委員長はオーストリアのPeter Nuts氏が、新たに就任しました。また、秘書（書記官）については、英語秘書が米国のSteve Lund氏、フランス語秘書が、フランスのStephanie Gaude氏、スペイン語秘書が、スペインのJosé Carlos Valdecantos Alvarez氏です。

会議には約30名が出席し、自己紹介の後、4年間の活動計画であるWork Programを策定するため、議論が行われました(写真-1)。以下では主要な報告や議論を述べます。

#### 3. 2. 1 前チームの活動報告

前身のTCB.2冬期サービス委員会の活動報告が行われました。

前チームのToRに基づく国際調査レポート、雪氷データブック（各国の気象概況や冬期道路管理等をとりまとめた冊子）、国際冬期道路会議グダンスク大会やアルゼンチン共和国で開催した冬期道路セミナー等の



写真-1 技術委員会の様子

活動について、再任された委員が分担して報告を行いました。

なお、前チームの成果である調査レポートと雪氷データブックは、PIARCのホームページから無料でダウンロード可能です。(登録が必要)

#### 3. 2. 2 現チームの活動テーマ

現チームのToRに示されているTC3.2冬期サービス委員会の活動テーマは、次の5つです。このうち3.2.1～3.2.3はレポート作成を行うものです。

- 3.2.1 冬期道路サービスに関する新技術の集成
- 3.2.2 都市部における冬期道路メンテナンス
- 3.2.3 コネクテッドカーや自動運転車と冬期道路サービスの関わり
- 3.2.4 雪氷データブックの更新
- 3.2.5 国際冬期道路会議カルガリー大会の準備

会議では、活動テーマ3.2.1と3.2.3は統合して取り組むことが確認された後、それぞれの活動テーマを担当するワーキンググループ(WG)のリーダーの選出を行いました。そして、全ての委員は、WG3.2.1とWG3.2.2に参加してレポート作成に協力することを確認しました。今後、WGリーダーからメール等で各委員に事例調査等を依頼するとのことです。

#### 3. 2. 3 国際冬期道路会議カルガリー大会について

国際冬期道路会議は4年ごとに開催される世界最大の冬期道路に関する国際会議です。第16回国際冬期道路会議は2022年2月8～11日にカナダ国カルガリー市で開催されます。大会の主要なイベントは、技術セッション、テクニカルビジット、除雪選手権、展示会です。冬期サービス委員会は技術セッションの論文査読やトピック分けなどを担当します。

カルガリー大会からは、レジリエンスをテーマに加

え、他のTCも参加することや、冬期サービスは引き続き主要テーマであることが報告されました。

その後、冬期サービス委員会が関わる技術セッションのトピックを議論し、次の7トピックと、リーダーを決定しました。

なお、論文概要募集は2020年6～9月に実施することです。

- ① Extreme winter situations (極端事象)
- ② Effect of climate change on winter service (気候変動と冬期サービス)
- ③ Road weather information (道路気象情報)
- ④ New techniques and technologies in winter service (冬期サービスの新技術)
- ⑤ Winter maintenance management (冬期維持マネジメント)
- ⑥ Road user communication and CAV during winter (冬の道路利用者情報提供とコネクテッド・自動運転車両)
- ⑦ Winter service in urban area (都市内の冬期サービス)

### 3. 2. 4 その他

PIARCでは、各TCに対して、中低所得国におけるセミナー（もしくは、中所得以上の国におけるワークショップ）を、任期内に2回開催することを求めています。冬期サービス委員会においては、2021年春に、ウクライナのキエフ市でセミナーを開催する予定であるとの報告がありました。また、残りの1回は、中国ハルビン市でのセミナー開催を予定しているとのことでした。しかし、ハルビンでの開催は前タームから何度も延期されており、また、中国の委員も会議に出ておらず、開催は疑問視される雰囲気でした。

### 3. 2. 5 今後の委員会の開催予定

次回の委員会は2020年10月7～9日にカルガリー市で開催することが確認されました。その後の委員会開催予定については、委員間で議論を行い、以下のとおり決定されました。

- 2021年 春： キエフ  
2021年 秋： マドリッド  
2022年2月： カルガリー  
…国際冬期道路会議と同時  
2022年 秋： スウェーデン（開催都市未定）  
2023年 春： スコットランド（開催都市未定）  
2023年10月： プラハ …世界道路会議と同時

余談ですが、前日開かれたTC3.2の有志による懇親会の場で、米国の委員より日本で開催できないかと提案されました。しかし、当日の会議では、ほぼ自薦で開催地が決まってしまいました。おそらく中心メンバーの多くが欧州なので、集まりやすいことを優先して、事前に調整されていたものと推察されます。

## 4. おわりに

国内においては、国土交通省道路局から技術委員に対し活動ミッションの設定が課せられています。これは、どのような目的で情報を集めて国内に還元するか等を記したものです。冬期サービス委員会では、主に新技術の収集をミッションの一つに挙げており、これを意識して活動する予定です。なお、活動成果については、毎年国内報告会で報告するほか、(公社)日本道路協会の会誌『道路』への投稿を行うことになっています。

さらに、国内的には、後継者の育成も求められています。筆者は、前任の加治屋安彦氏（元雪氷チーム上席研究員）から技術委員を引き継いで10年以上になります。現タームでは、新たに連絡委員に任じられた雪氷チームの松下主任研究員と協力し、委員会活動を通じて国際貢献に努めるとともに、有用な知見を還元できるよう努力したいと考えています。

最後に、前タームの委員会活動においては、多くの方々に、ご協力をいただきました。紙面を借りて深く感謝するとともに、現タームも、引き続きご支援のほど、お願い申し上げます。



松澤 勝  
MATSUZAWA Masaru

寒地土木研究所  
寒地道路研究グループ  
グループ長  
博士（工学）  
技術士（建設）  
気象予報士